

形成外科専門研修プログラム(2015年度)

形成外科は顔面(唇裂・口蓋裂、小耳症など)、四肢(合指(趾)症、多指(趾)症など)や体幹(乳房低形成など)における先天異常の治療から、外傷、熱傷および瘢痕拘縮、ケロイド、顔面神経麻痺など後天的な変形に対する治療、難治性潰瘍や褥瘡の治療、さらに乳癌切除後の乳房再建や頭頸部癌切除後の再建など腫瘍摘出後の再建術にいたるまで、幅広い領域の疾患を治療対象としている。また、美容外科は「人間の美を追究する医学」であり、近年アンチエイジングも含めた医学的見地からの幅広いアプローチが展開されているが、形成外科手技を基本として治療するため、形成外科領域の一つとなっている。

当科では上記疾患を中心に、年間 1900 例近くの手術実績を有しており、国内大学ではトップレベルの手術件数となっている。特に顔面神経麻痺の治療やマイクロサージャリーによる組織移植術においては、世界的な実績を誇っている。

このような背景のもと、形成外科の様々な対象疾患に対して的確な診断と最適の治療を施せる、力強い人材を育てるようプログラムを作成している。

I. 研修内容

初期研修によって得た臨床医学の基礎知識を基盤として、形成外科専門医の取得を1つの目標と位置づけ、知識と実技の習得を行う。具体的には以下の項目を目標とするが、形成外科の手術結果の良否は、術後早期から患者・家族に判断できることが多いため、「正しい手術手技の獲得」を臨床研修の基本としている。

年次別手術手技の研修目標

レジデント1年目

真皮縫合を中心とした皮膚縫合、局所麻酔手術での小腫瘍切除術、全身麻酔手術での良性腫瘍切除術、植皮術(採皮と移植)、腱断裂等の手指外傷の治療、顔面骨骨折整復術(鼻骨骨折、単純な下顎骨折や頬骨骨折)、顕微鏡下での手術(マイクロサージャリー)の基本的な手技の獲得など。

レジデント2年目

神経・血管断裂等の複雑な手指外傷の治療、顔面骨骨折整復術(複雑な頬骨骨折などの顔面骨折)、指(趾)の先天異常、簡単な遊離皮弁の挙上、簡単な有茎皮弁移植術、瘢痕形成術、レーザー治療など

レジデント3年目

切断指再接着、顔面骨骨折(眼窩底骨折など)、簡単な悪性腫瘍切除と再建(皮弁)、様々な遊離皮弁の挙上、唇裂・口蓋裂、その他の先天異常、簡単な美容外科手術など

II. 取得できる資格

個人差もあるが、以下のような資格が取得可能である。

形成外科専門医、創傷外科専門医、美容外科専門医、レーザー専門医、熱傷専門医、手外科専門医、頭蓋顎顔面外科専門医など。

III. 研修場所

レジデント1年目：原則として杏林大学付属病院

2年目～専門医取得まで：杏林大学付属病院もしくは外部関連施設

外部関連施設は埼玉医科大学総合医療センター、山梨大学医学部付属病院、東京警察病院、虎ノ門病院、静岡済生会病院、東京西徳洲会病院、豊岡第一病院、湯河原病院、国立がんセンター中央病院、都立大塚病院、公立昭和病院、セルポートクリニック横浜などである。

IV. 研修体制

A) 診療チームの構成と指導体制

診療チームの基本的な構成は、助教以上2～3名、医員1～2名を上級医とした診療チーム体制としている。形成外科全体では5チーム構成となっているが、その他より専門性の高いサブチーム(頭頸部再建、血管腫治療など)も構成している。

B) 水曜日にスタッフ病棟回診、カンファレンスがおこなわれる。おおよその週間予定表は次のようになっている。

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	外勤	手術	病棟回診	外来	病棟回診	外来
午後	外勤	手術	手術	手術	外来手術	
18時以降		病棟	カンファ	当直	病棟	

C) スタッフ

役職	氏名	出身	専門
主任教授	波利井清紀	東大 1967 年卒	マイクロサージャリー、顔面神経麻痺
教授	多久嶋亮彦	熊大 1986 年卒	顔面神経麻痺、頭頸部再建、唇裂・口蓋裂など
兼任教授	大浦紀彦	日大 1990 年卒	難治性下腿潰瘍、フットケア、褥瘡など
講師(医局長)	尾崎 峰	東医歯大 2000 年卒	頭蓋顎顔面外科、血管腫など

IV. 研修の評価

手術記録の記載やカンファレンスの際のプレゼンテーションにより、その時点の専門的知識の評価が行われる。また年に1度、診療科長または医局長との面談の場で、研修の成果についてのコメントと今後の課題についての総合的評価が行われる。専門医の試験にむけた、個々の症例に対する評価も随時行われる。

VI. 大学院との関連

大学院は卒業3年目以後に入学可能である。最低2年間は臨床に携わりながら、研究の基礎を学ぶ。3年目以降は研究に専念し、ベッドフリーとなる。大学院においては、基本的に、興味のある領域を自ら選択し、それに応じて具体的テーマを指導者(教授と指導スタッフ)と話し合っ決めて決める。基礎的テーマも選択可能であり、必要に応じて基礎医学教室や外部研究所などに派遣する。

VII. 処遇

レジデントの処遇については、「杏林大学医学部附属病院人材育成プロジェクト」のホームページを参照されたい。有給ポストであり、健康保険・労災保険に加入できる。

当科では週1日の外勤(アルバイト)が認められている。また当直バイトも随時手配している。これらの収入を併せると、レジデント1年目でも生活には困らない年収が得られる。なお、関連病院に出向中は、その病院の職員として処遇されるため、年収は病院により差がある。

レジデント終了後の勤務先は、大学にあっては「医員」または「任期制助教」となるが、外勤によって個人的な収入に差がないよう配慮する。外部関連病院は、2年目・3年目の外部研修病院を中心に、各自の興味ある臨床分野をより修練できる病院への派遣を予定している。ただしレジデント終了2年後には「形成外科専門医」の試験があるため、それに応じた十分な経験を積めるよう配慮している。

VIII. 定員・レジデントの選考方法など

当科のレジデントの選考は主に面接と書類選考により行い、特別な試験等は設けていない。大学院生の場合は学内規定による選考試験が行われる。見学を含め当科での研修を希望する方は、下記の担当者まで連絡されたい。尚、見学は随時受け付けている。

レジデント 尾崎峰(医局長)
e-mail: zakimin@nifty.com
大学院生 多久嶋亮彦(教授)
e-mail: takushima-pla@umin.ac.jp
電話 0422-47-5511(代表) PHS 7431(尾崎)
定員
レジデント 3~4名程度(各年度)
大学院生 1名程度